

年次支部役員等出席者名簿 (平成28年1月14日)

役 職 名	氏 名	出欠状況
年次支部協議会代表幹事	松木 茂夫	出席
年次支部協議会副代表幹事 (総括・大学支援)	堀合 辰夫	出席
年次支部協議会副代表幹事 (総括・大学支援)	青山 和夫	欠席
年次支部協議会副代表幹事 (事務局)	小竹 正倫	出席
年次支部協議会副代表幹事 (学生支援)	佐々木幸男	出席
年次支部協議会副代表幹事 (学生支援)	鈴木 康二	出席
年次支部協議会副代表幹事 (広報・事務局)	佐藤 愛子	出席
年次支部協議会副代表幹事 (学員交流)	山井 俊昭	欠席
年次支部協議会副代表幹事 (ホームカミング)	掛水 省三	出席
年次支部協議会副代表幹事 (学員交流)	乗兼 浩朗	
年次支部協議会副代表幹事 (IT推進)	小川 学	出席
年次支部協議会事務局長	山城 博光	出席
年次支部協議会事務局次長	野田 明利	欠席
年次支部協議会事務局次長	山本 卓	出席
年次支部協議会会計監事	平岩 弘邦	出席
年次支部協議会会計監査	才野 智裕	出席
年次支部協議会顧問	柳田 晋次	—
年次支部協議会顧問	正野 健樹	—
年次支部協議会顧問	室 勝弘	—
年次支部協議会顧問	増田晃次郎	—
年次支部協議会顧問	小田 眞一	欠席
年次支部協議会広報部長	佐藤 愛子	(出席)
年次支部協議会広報副部長	小暮 睦美	欠席
年次支部協議会学員交流委員長	———	———
年次支部協議会学員交流副委員長	佐藤 愛子	(出席)
年次支部協議会IT推進委員長	小川 学	(出席)
年次支部協議会学生支援委員長	秋山 豊	欠席
年次支部協議会学生支援副委員長	久保 良太	出席
年次支部協議会大学支援委員長	小田 眞一	(欠席)
年次支部協議会スポーツ応援委員長	高橋 丈雄	出席

平成28年1月14日

年次支部協議会平成28年度事業計画 (案)

1 基本方針 (規約第2条)

- (1) 年次支部との連携・親睦を図るとともに中央大学及び学員会の施策を推進する。
 - (2) 中央大学及び学員会の発展・興隆に寄与する。
 - (3) 新設支部の結成支援を行う。
- ①白門会2016 (平成28年3月卒業)

2 会議など

(1) 年次支部協議会全体会議

ア 第1回 (予定)

日時：平成28年5月14日 (土) 16:00～17:00 懇親会 17:30～19:30

議題：平成27年度事業報告について (各委員会報告含)

：平成27年度決算報告について

：平成28年度事業計画案について

：平成28年度予算計画案について

：ホムシグダイの実施内容について

：その他報告事項について

イ 第2回 (予定)

日時：平成28年12月17日 (土) 16:00～17:00 懇親会 17:30～19:30

議題：平成28年度事業計画の進捗状況について

：その他報告事項について

ウ 第3回 (予定)

日時：平成29年3月11日 (土) 16:00～17:00 懇親会 17:30～19:30

議題：平成28年度事業計画の進捗状況について

：平成29年度事業計画案方針について

：平成29年度予算案方針について

：その他報告事項について

(2) 執行部役員会議

ア 第1回

日時：平成28年4月21日 (木) 19:30～21:00

議題：平成27年度事業報告について (各委員会報告含)

：平成27年度決算報告について

：平成28年度事業計画案について

：平成28年度予算計画案について

：ホムシツグデイの実施内容について

：その他報告事項について

イ 第2回以降必要に応じて実施予定

日時：平成28年5月14日(土) 14:00～15:00

議題：平成27年度事業報告について

：平成27年度決算報告について

：平成28年度事業計画案について

：平成28年度予算計画案について

：ホムシツグデイの実施内容について

：その他報告事項について

ウ 第3回(予定)

日時：平成28年12月17日(土) 14:00～15:30

議題：平成28年度事業計画の進捗状況について

：その他報告事項について

エ 第4回(予定)

日時：平成29年2月10日(金) 19:30～21:00

議題：平成29年度事業計画案方針について

：平成29年度予算案方針について

：その他報告事項について

オ 第5回(予定)

日時：平成29年3月11日(金) 14:00～15:30

議題：平成28年度事業計画の進捗状況について

：平成29年度事業計画案方針について

：平成29年度予算案方針について

：その他報告事項について

3 各委員会実施事項

(1) 学員交流委員会

(2) 学生支援委員会

(3) IT化推進委員会

(4) 大学支援委員会

(5) スポーツ応援団委員会

(6) 広報部(会報)

年次支部協議会平成27年度予算編成について

1. 収入の部

- (1) 年度会費は前年度を基に計上。
- (2) 懇親会費は参加者負担金を計上。(約3回分)
- (3) 事業活動費は事業支援費等に対する助成金(学生支援委員会・広報部)を見込んで計上。
- (4) その他の収入は普通預金利息を計上模擬店売上(ホームカミングデー)は不確定のため項目のみ計上した。

2. 支出の部

- (1) 会議会合費は会議実施経費および懇親会費(個人負担)と助成金を計上。
- (2) 通信費は年次支部協議会、執行役員会、全体会議等の開催通知送料他を計上。
- (3) 印刷費は会議等の資料および封筒の印刷代を計上。
- (4) 消耗品費は年次支部協議会用封筒作成、事務局文具費等を計上。
- (5) 手数料は諸費用の支払い及び預金引出手数料等を計上。
- (6) 事業支援費

- ① 学員交流委員会へは若年・年次支部・新卒支部等へ積極的な動きかけを行うための経費として。
 - ② 学生支援委員会は3年生(留學生含む)への就職支援活動費として計上。
 - ③ IT化推進委員会へは年次支部協議会として全ての卒業年次支部とのネットワークの構築および、その情報化支援活動費として。
 - ④ 大学支援委員会(大学が行うグローバル化支援等の情報収集及び支援等)。
 - ⑤ 広報部は年次支部協議会会報の年2回発行(卒業生配付用含む)を予定し計上。
- * 平成26年度実施形態を参考にして予算案を作成*

平成27年度年次支部協議会収支予算案

収入の部		支出の部	
年会費	300,000	会議会合費	600,000
懇親会費	400,000	通信費	60,000
事業活動費 (助成金申請)	1,130,000	印刷費	40,000
学生支援委員会	330,000	消耗品費	10,000
広報部(会報発行)	700,000	手数料	5,000
年次支部活動費	100,000	事業支援費	1,280,000
その他の収入	600	学員交流委員会	50,000
利息収入	600	学生支援委員会	330,000
模擬店売上 (ホームカミングデー)	0	IT化推進委員会	100,000
		大学支援委員会 (グローバル化支援)	65,000
		スポーツ応援団委員会 (箱根駅伝横断幕設置等)	35,000
		広報部(会報発行)	700,000
小計	1,830,600	小計	1,995,000
前期繰越金	3,914,612	次期繰越金	3,750,212
合計	5,745,212	合計	5,745,212

平成27年5月30日
年次支部協議会
会計幹事 平岩弘邦

年次支部協議会広報部 平成28年度事業計画

1、 事業の名称

年次支部協議会 会報の発行 及び 年支部協議会広報活動

2、 事業主体

中央大学学生会年次支部協議会 広報部会 (担当責任者 佐藤愛子広報部長)

3、 事業目的

- ① 学員全体の緊密なネットワークを構築するために、定期的に会報を発行しホームページの推進と共に、年次支部協議会の広報活動を活発化させ、中央大学の貢献に寄与すること
- ② 学員や学生への広範囲な取材を通じ、年次、地域、職域を超えて参加出来る様な

大学関連行事、支部活動の様々な情報を提供することにより、各支部の相互理解、世代間の連携、交流を深めることを目的とする

- ③ 現役学生に対する就職支援、進路相談の情報を提供する
- ④ 新卒会員に対しての学員会及び年次支部協議会のPRや多くの著名なOB会員の紹介シリーズの掲載も含め、卒業後のサポート体制作りを推進していく

4、 事業概要

年間2回程度の会報発行予定

- ① 年次支部協議会事業計画、活動報告、各委員会活動報告
- ② 各支部活動状況紹介、イベント・交流会案内
- ③ ホームカミングデー等の大学関連行事、学生スポーツ応援、音楽会演奏会、講演会等の案内、活躍している学生・サークルの紹介
- ④ 学員OBへの学生支援(就活・復興支援などボランティア活動)の協力依頼
- ⑤ 記載内容は、従来、学員時報、各支部の会報に委ねてきたが、学員時報などで紹介されないようなオ리지ナルな記事を掲載する

5、 期待される成果

- ① 学員及び準会員に年次支部への加入を促し、年次支部協議会の存在認識や学員会の活動内容の理解が多い多くの一般会員にPR効果が期待できる
- ② 会報発行が年次や地域を越えた一般会員、若い世代への幅広い情報提供になり、交流機会の増加、学生への支援活動等の宣伝が、学員及び準会員の大学ネットワーク構築にも貢献出来る

会報発行実施時期

平成28年度は、28年10月、29年3月頃に2回発行予定

6. 会報発行予算案

会報発行部数：

10月発行 1000部 (配布先：各支部 500部、本部配布 300部、その他 200部)、
3月発行 7000部 (配布先：準会員 6000部、その他 10月発行と同じ部数)

会報発行予算：

・総額 700,000円の内

・学会会本部への支援申請額：700,000円

① 6号 (1000部) 250,000円 ② 7号 (7000部) 420,000円

② 会報送料他 30,000円

① 会報発行部数
② 会報発行予算
③ 会報発行部数
④ 会報発行予算
⑤ 会報発行部数
⑥ 会報発行予算
⑦ 会報発行部数
⑧ 会報発行予算
⑨ 会報発行部数
⑩ 会報発行予算
⑪ 会報発行部数
⑫ 会報発行予算
⑬ 会報発行部数
⑭ 会報発行予算
⑮ 会報発行部数
⑯ 会報発行予算
⑰ 会報発行部数
⑱ 会報発行予算
⑲ 会報発行部数
⑳ 会報発行予算
㉑ 会報発行部数
㉒ 会報発行予算
㉓ 会報発行部数
㉔ 会報発行予算
㉕ 会報発行部数
㉖ 会報発行予算
㉗ 会報発行部数
㉘ 会報発行予算
㉙ 会報発行部数
㉚ 会報発行予算
㉛ 会報発行部数
㉜ 会報発行予算
㉝ 会報発行部数
㉞ 会報発行予算
㉟ 会報発行部数
㊱ 会報発行予算
㊲ 会報発行部数
㊳ 会報発行予算
㊴ 会報発行部数
㊵ 会報発行予算
㊶ 会報発行部数
㊷ 会報発行予算
㊸ 会報発行部数
㊹ 会報発行予算
㊺ 会報発行部数
㊻ 会報発行予算
㊼ 会報発行部数
㊽ 会報発行予算
㊾ 会報発行部数
㊿ 会報発行予算

① 会報発行部数

② 会報発行予算

③ 会報発行部数

④ 会報発行予算

⑤ 会報発行部数

⑥ 会報発行予算

⑦ 会報発行部数

⑧ 会報発行予算

⑨ 会報発行部数

⑩ 会報発行予算

⑪ 会報発行部数

⑫ 会報発行予算

⑬ 会報発行部数

⑭ 会報発行予算

⑮ 会報発行部数

⑯ 会報発行予算

⑰ 会報発行部数

⑱ 会報発行予算

⑲ 会報発行部数

⑳ 会報発行予算

㉑ 会報発行部数

㉒ 会報発行予算

① 会報発行部数

② 会報発行予算

③ 会報発行部数

④ 会報発行予算

⑤ 会報発行部数

⑥ 会報発行予算

⑦ 会報発行部数

⑧ 会報発行予算

① 会報発行部数

② 会報発行予算

③ 会報発行部数

④ 会報発行予算

⑤ 会報発行部数

⑥ 会報発行予算

⑦ 会報発行部数

① 会報発行部数

② 会報発行予算

③ 会報発行部数

④ 会報発行予算

⑤ 会報発行部数

⑥ 会報発行予算

⑦ 会報発行部数

① 会報発行部数

② 会報発行予算

③ 会報発行部数

④ 会報発行予算

⑤ 会報発行部数

⑥ 会報発行予算

⑦ 会報発行部数

年次支部学員交流委員会 平成28年度事業計画

1、事業の目的

- ① 年次支部の世代を越えた学員同士の情報交換・親睦・交流を図る
- ② 2016年度新卒支部、若手年代支部、現役学生等への交流会を通じて卒業後の支援・サポート体制作りを構築する
- ③ 中堅年代支部（昭和50年代～平成元年）との交流懇談会の開催により、各世代間の理解を深め連携を図る

2、今年度の事業概要

- ① ホームカミングデー（10月23日開催予定）時の2016年新支部設立に向けて、支援協力体制を整える
 - ② 2017年度新卒支部の設立準備への支援・協力（例：卒業パーティーの開催等の協力）
 - ③ 若手支部・中堅支部会員との交流会を開催し、世代間の理解と親睦を深める
 - ④ 解散支部（昭和26年会）へのサポート協力（イベントなどのご案内等）
- 3、事業予算 500000円
- 内容 ・新支部への協力支援
・中堅支部・若手支部会員との交流懇親会開催 等

大学支援委員会事業計画 2016 (案) (4つのテーマ)

※大学支援委員会の目的 『中央大学を支援し、ブランドの向上、強化に寄与する。』

- (1) 大学のグローバル化推進を支援する。(国際センター、白門海外支部との連携)
- (2) 学生の実務教育について支援する。(ゼミ連合会や学部横断的勉強会との連携)
- (3) 学生と企業や国、学生と地元との連携を支援する。(産学官連携、地方支部との連携)
- (4) 学生スポーツの応援 (スポーツ応援団との協働)

1. グローバル化支援

- ①中央大学国際センターと連携し、文部科学省主管の「GO GLOBAL JAPAN」の英語プレゼンテーションコンテストの学内選考に協賛し、国際的に活躍できる人材の育成に寄与する。
- ②日本人学生と留学生の自然な交流の支援を行う。(学生、国際センター主体イベントへの支援)文化交流(お祭りや音楽会等の開催の支援)を通じて、それぞれの国の理解が自然に進むような仕組みを構築する。
- ③中央大学学生の海外留学促進のため、奨学金制度の充実を図る。
(現在：60名の枠、一人当たり20～30万円/年、年間100名が留学)
- ④学生会海外支部との連携を強化し、海外の大学に留学している中央大学学生への支援体制を構築する。また、海外新支部設立の支援を行う。

2. 実地教育支援 「建学の精神：実地応用の素を養う」

- ①経済学部や商学部のゼミ連合会と連携し、一流の経済人を輩出できるような支援を行う。
- ②土曜塾(学部横断的勉強会)との連携、協働を行う。
- ③キャリアセンター等、大学の組織と連携し、セミナー講師(学員中心)を派遣する。

3. 産学官連携、地域貢献(文系学部)支援

- ①地方創生・・・地方の活性化に寄与⇒地方支部との連携(香川支部、北九州支部等)
- ②地域連携、地域貢献・・・学生ボランティア活動への支援
- ③空家問題、多摩ニュータウンの再生、シャッター通りの再生等⇒都市機構、商店街との連携

4. 学生スポーツの応援 (スポーツ応援団との協働)

- ①箱根駅伝応援のため、箱根大平台に「闘魂たぎる火と燃えよ!」の横断幕を設置する。
今期は、新たに箱根湯本に大型縦幕を設置すべく推進する。(学員の提案による)
- ②東京オリンピックに多くの学生、学員が出場できるよう強化支援や応援を積極的に行う。

※ブランド力向上

これらの活動を、すみやかに組織的に実行することにより、中央大学ブランドを向上させる。

(以上)

(詳細については、委員会にて検討中)

